



平成31年3月12日

各 位

琴平町 総務課長
(公印省略)
観光商工課長
(公印省略)

防災行政無線（拡声子局）による放送時間の変更について（お知らせ）

春陽の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃は、琴平町行政に関しまして、ご理解ご協力を賜りありがとうございます。
す。

さて、防災行政無線（拡声子局）による放送につきまして、第35回記念
「四国こんぴら歌舞伎大芝居」公演に伴い、下記のとおり放送時間に変更とな
りますのでお知らせいたします。

記

- 1 変更期間 : 平成31年4月1日（月）～4月21日（日）
- 2 変更時間 : 午後6時 → 午後7時
- 3 対象地域 : 琴平町全域
- 4 対象機器 : 屋外スピーカー、防災ラジオ、戸別受信機
- 5 問い合わせ先 : 琴平町役場 総務課 0877-75-6700
観光商工課 0877-75-6710

新生活はじまる 引越×住民票×選挙

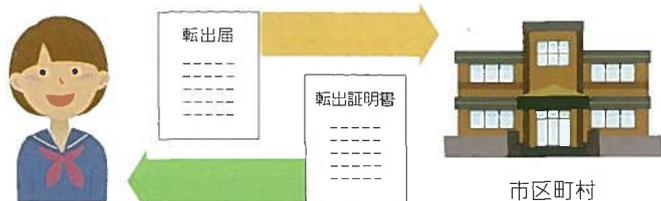


進学や就職などで引っ越しされた方は、
原則、**現在住んでいる寮・アパート等が住所地**になります。

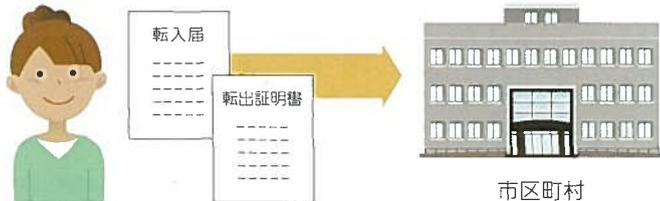
住所の異動がある方は、住民基本台帳法に基づき、転出・転入の手続きをする必要があります。上下水道やゴミ処理、道路・公園の整備などの役割は、住んでいる市区町村が担っています。住民票は、こうした行政サービスや**選挙人名簿**への**登録**などにつながる大切な情報ですので、忘れずに手続きをしましょう。

転出・転入の手続きは簡単です！

引っ越し前 転出届を提出し、**転出証明書**を受け取る



引っ越し後 転出証明書を添えて、**転入届**を提出する



※転入届は、転入した日から**14日以内**に提出して下さい。

※マイナンバーの「**通知カード**」や「**マイナンバーカード**」の記載事項の変更が必要ですので、これらのカードもお持ち下さい。

※「**マイナンバーカード**」を持っている方は、引っ越し前の市区町村に郵送で転出届を提出することで、引っ越し後の市区町村にのみ出向いて転入手続きが可能です。

※正当な理由がなく住民票の異動の届出をしない場合、**5万円以下の過料**に処されることがあります。



引っ越したら、どこで投票できるの？

- A** 新住所地に引っ越してから3カ月経過していれば、
新住所地で投票できますが、住民票を移す必要があります！

※引っ越しをした場合、転入した日から14日以内に新住所地の市区町村に届出をする必要があります。



引っ越して3カ月経たずに選挙があるとき、投票できないの？

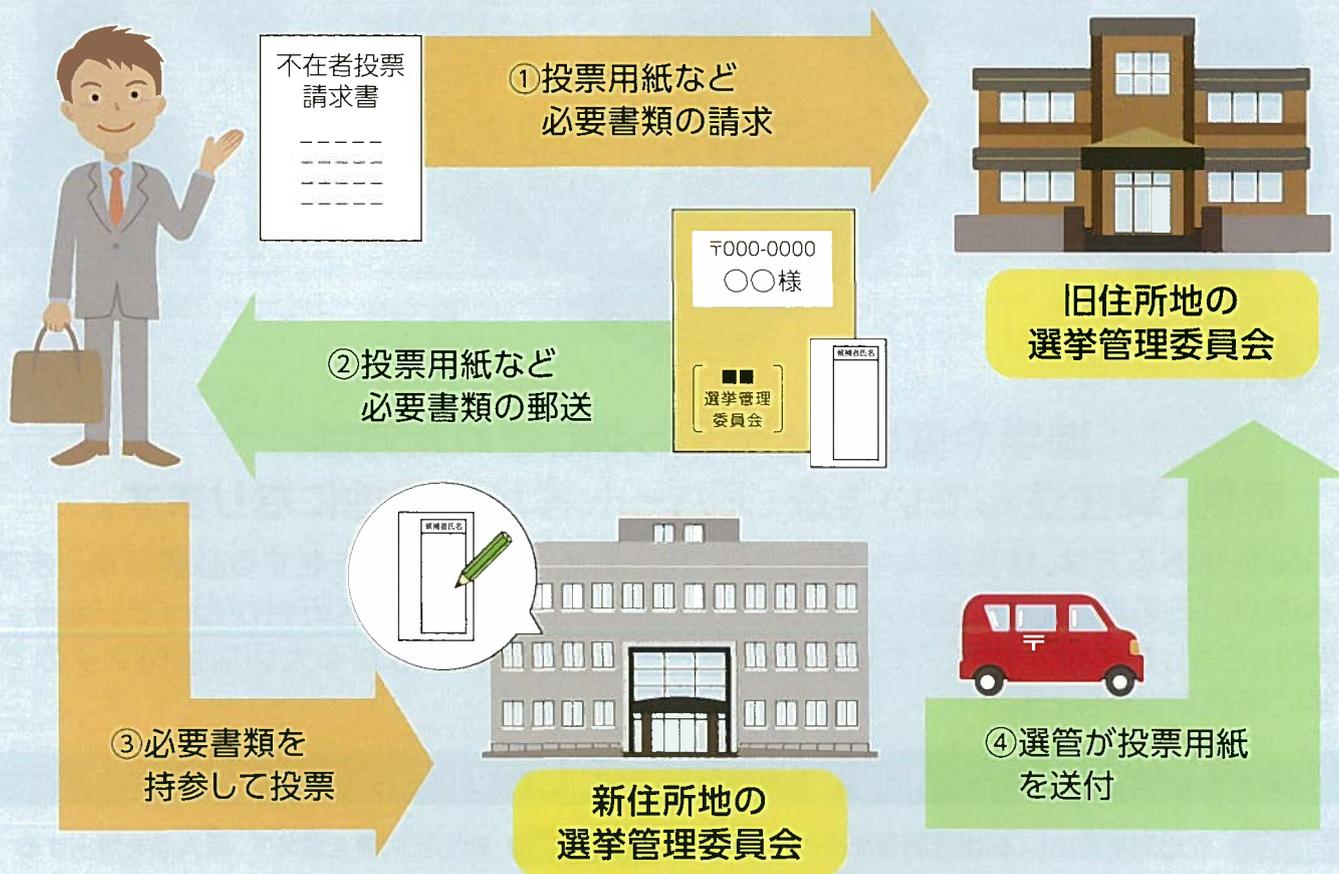
- A** 引っ越し前の住所地(旧住所地)に3カ月以上住んでいたのであれば、
旧住所地で投票できます！

※地方選挙では、当該選挙が行われる区域内で住所移転した場合に限られます。



旧住所地に行けない場合はどうしたらいいの？

- A** 『不在者投票制度』を活用できます！



※不在者投票は、仕事や旅行などで、選挙期間中、現住所地以外の市区町村に滞在している方も、
滞在先の市区町村の選挙管理委員会で行うことができます。

※投票用紙等の郵送に時間がかかる場合がありますので、お早めの手続きをお願いします。

詳細は
こちら



引っ越したら(住民票を移したら)、地元の成人式には出席できないの？

- A** ほとんどの市区町村で、地元の『成人式』に参加できます。

※成人式の案内状の送付先の変更など事前に手続きが必要な場合もあるので、詳しくは参加を希望する成人式を開催する
市区町村にお問い合わせ下さい。



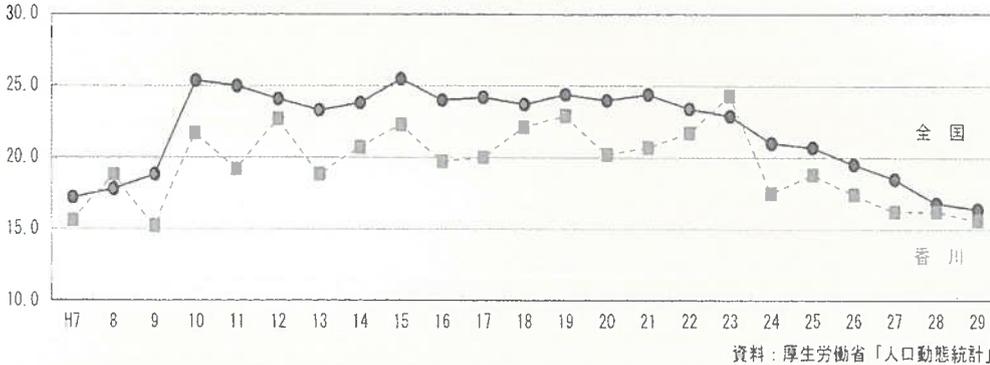
3月は「自殺対策強化月間」です

大切ないのちを守るためにできること



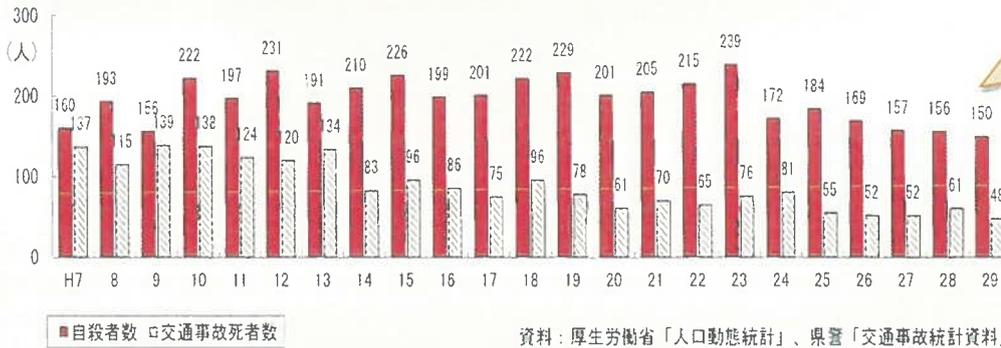
わが国では、毎年約3万人が自殺で亡くなっています。自殺の原因には、こころの病気があるとみられています。こころの病気は、誰でもかかる可能性があります。ひとりひとりが身近な人の様子に気をつけ、**からだとこころのサインに気付く**ことが、かけがえのないいのちを守ります。

[第2-1図]自殺死亡率（人口10万人対）の推移（全国、香川）



香川県の自殺死亡率は、全国と比べるとおおむね低く推移しています。

[第1-2図]自殺者数と交通事故死者数の推移（香川）



香川県の交通事故死者数は、全国でワースト圏内にありますが、自殺者数の方が多くなっています！

ストレスサインを見逃さないで！

こころのサイン ・イライラする ・怒りっぽい ・不安感 ・無気力 ・抑うつ感
・集中力の低下

からだのサイン ・食欲低下 ・頭痛や肩こり ・動悸 ・めまい ・下痢や便秘
・寝つきが悪い

行動のサイン ・深酒 ・過食 ・多動 ・ケアレスミスが増えた
・対人交流避ける ・笑わない



気づいてください！こころのSOS！

気付いたら早めに声をかける どうしたの？大丈夫？と声をかけてあげてください。

励まみや助言より共感と傾聴を その人の気持ちに共感し、傾聴することが大切です。

医療機関や専門家への相談を勧める 病院に行きづらい場合は、電話相談などを利用しましょう。

編集発行／
社会福祉法人
琴平町社会福祉協議会
仲多度郡琴平町榎井891-1
TEL 0877-75-1371
E-mail info@k-wel.or.jp
HP http://www.k-wel.or.jp

福祉 ことひら



- 2 3 4 5 … 「福祉ことひら」100号に寄せて
- 6 7 … 「福祉ことひら」から見る社協事業の変遷
- 8 … 活動の紹介「歌いま専科」
- 9 … 「福祉ことひら」101号へ向けての豊富
- 10 … 共同募金（法人募金企業）報告
善意の寄付 切手等収集ボランティア





理事 石井 泰弘

我が町では多くの住民が「ここに住んで良かった」「ここで子育てして良かった」と言える町を目指して頑張っています。社協の役割の一つは行政の行き届かない色々な課題を住民の皆と共有し、一緒になって解決していくことです。

最近、家族のあり方の変化、地域のつながりの希薄化などにより地域の課題も複雑化、多様化しております。こういう時だからこそ社協と課題を共有し、私たち琴平住民の地域力を発揮していきたいものです。

社会福祉協議会の理事に就任いたしました2年が過ぎようとしております。民生委員としては以前より協力をさせていただいていましたが、民協の会長となり、社協の理事を務めさせていただく様になり外から見た社協の姿と、内からの社協との姿を比較し十分に理解が出来ていなかったことを痛感いたしました。何事も理解し合うためには相互の信頼と協力関係がなければなりません。町民の皆様は琴平社協の現状と、何が出来るか、何を目標しているのかを理解していただくような活動をしていかなければなりません。



理事 藤井 孝一

民協の活動も同様に地味で外に対して何のアピールも出来ておりませんが、少しずつ民協の姿も変化しております。活動に規制はありますが、住民に必要とされる民生委員・児童委員を目指しております。また近年は高齢者問題だけではなく児童の問題にも積極的に取り組んでおります。同様に琴平町社協の役割も少しずつ変化しているのではないのでしょうか。福祉社会に対応、貢献するという基本理念は変わりませんが子どもから高齢者まで信頼され、必要とされる琴平町社協の組織にならなければ存在価値はありません。多様な社会、多様なニーズに対応してゆくためにはどの様にすれば良いかを社協だけではなく住民とともに考えて行きたいと思っております。

児童虐待のニュースが新聞紙上を賑わせ、暗澹たる気持ちになります。

この家族は地域から孤立していたのかもしれませんが、こうした家庭にそっと手を差し伸べることができにくい世の中になっているように思います。

人と人とのつながりを作ること、これからの世の中で一番大切なことだと思います。ここが社協の大きな役割ではないのでしょうか。



理事 大林 正和



理事 山下 康二

「福祉ことひら」100号発行、誠におめでとうございます。

私は自治会連合会会長として社協の理事をお引き受けしておりますが、昨今の自治会加入率の低下、高齢化による脱退者の増加、転入者の加入が進まないことに不安を感じています。

人口減少、高齢化が進んでいる今だからこそ、向こう三軒両隣り、お互いに助け合いながら、防災や町の活性化のために話し合いをすることが大切だと思います。

社協や行政とともに、どのような対策をしていくか考えていきたいものです。



理事 為広 幸子

瀬戸大橋開通時の門前町ことひらは若者であふれていました。他人事と思っていた福祉…

平成14年から3年間「ヒューマンサポートシャントセナ21事業」に参加し、大橋謙策先生から、これからの地域福祉全般について町民全体が勉強しました。

私もふくめ町の人たちの意識が大きく確実に変わりました。高齢化の波もあつと言う間に押し寄せ、買い物難民も増え、婦人会も地域の絆、声かけ、見守りを実践。「住んでよかったこの町に」を合言葉に会員一同、元気で仲よく、楽しく、ボランティアが出来る幸せに感謝しています。

これからも社協の皆さまが地域のステーションとして頑張っておられることを期待しています。

200号が出る頃には



会長 竹井 禎

日本語は感情表現が非常に豊かで、多彩であると言われています。四季の移ろいの美しさが影響していると考えられます。言語表現が多様であればあるほどそれを使いこなす技量とともに受け手の感受性をも研ぎ澄ませることになり、それによって触発された行動が生まれてくる事になります。

この感受性の豊かさが、平和な江戸時代にあつて人々の職人技術はもちろんのこと、立ち振る舞いや趣味や道楽に向かった結果、どのようなささいなものにも芸術性を見出し、モノ作りの現場はもとより、踊り、詩歌、演劇、茶の飲み方、果てはうぐいすの鳴かせ方に至るまで、世界的に自慢できる多様な文化が展開されてきたと確信しております。

一方、この感受性が人そのものに向けられる時には、「思いやり」や「慈しみ」に端を発した感情は、「数世代の同居親族」はもとより「向こう三軒両隣」、「遠くの親戚より近くの隣人」へと及び、西洋人が福祉と称する行為をも大きく包含した博愛の心に昇華していったのではないかと思います。大災害のたびにそれを思い起こします。「福祉」の心は日本人のDNAのなかに潜まされてしまっているのではないかと。

昭和45年頃以降の高度経済成長の大きいうねりの中で日本は、人々の勤勉性に由来する速さと、勢いで世界が刮目する経済発展と社会の変革を成し遂げました。「福祉」も制度整備の手が打たれ、国全体のしっかりした骨格が形づくられ、その恩恵がもたらされました。

自由主義経済が成熟した現代に至り、グローバリズムが闊歩を始め、日本にも上陸。利便性、快適性と引き換えに生活圏が乱され、家族の有り様も歪められました。その結果、これまでの福祉制度は、そのままでは十分にカバーしきれない綻びが出てきました。この綻びを繕うことが必要になっています。

乱された生活圏の再構成や家族的な見守りの復活です。国全体として「地域共生社会」の旗印の下で取り組んでいるところです。あくまでも綻びであり、大手術が必要な状態ではありません。その修繕に必要な素材は人々のつながりや思いやりのDNAです。琴平には十分な素材が揃っております。町のご指導も得ながら、皆様のご協力をいただき、200号が発行されるまでには、琴平町の地域共生社会が輝かしく甦っていることを祈念致しております。この事業は、琴平町の喫緊の課題である新しい街づくりとの間で相互作用の化学変化を起こした時、成し遂げられるものと期待しております。

「福祉ことひら」発刊100号おめでとうございます。

私が琴平町に深く、親しく関わるようになって約25年近くの歳月が経ちます。琴参閣での600名近くの方が参加した、熱気あふれる「第1回こびら地域福祉セミナー」などが走馬燈のように思い出されます。

この間、琴平町社会福祉協議会の実践は大きく成長発展し、全国に誇れる実践として高い評価を受けています。「ガリック娘」、「地域生活総合支援サービス」、「地区ネット活動」等素晴らしい実践が展開されています。

これからは、町行政と一体となって、コミュニティソーシャルワーク機能を軸とした地域包括ケアの推進に取り組んで頂きたいと思っております。

そのためにも、「福祉ことひら」が「単なるお知らせ版」としての広報ではなく、住民の生活課題を発見し、住民に関心を寄せて頂き、かつその問題解決の方向を提示し、住民が共に手を携えて問題解決に参加できる契機を提供できるような役割を担える「広報」への「新たな脱皮と発展」を祈念しています。



顧問 大橋 謙策



評議員 山神 猛

「福祉ことひら」創刊100号おめでとうございます。琴平町社会福祉協議会は、住民と行政のパイプ役として、福祉の町づくりに向けて、長年にわたり地域での福祉事業の中心的役割を果たして来られましたことに対し、心から敬意を表するものです。急激な人口減少に対応し、今後も人と人との絆を大切に「誰もが健康で安心して暮らせる福祉の町づくり」を基本として住民福祉の向上のため変わらぬご協力をお願いするところであります。

少し前までは、福祉と言えば「弱者の世話をする」といったイメージでしたが、高齢社会、共生社会になった今では、「世話をする・される」といった垣根はありません。お互いに一緒にあって「どう人生を楽しみ充実させるか」という視点が大切になってきたと思います。



評議員 都村 尚志

いつも感じますが、明るく元気な琴平社協の皆さんはわが街の潤滑油です。皆さんが街を走っているだけで街が明るくなります。今後とも琴平社協を応援します！

琴平町社協を中心とした地域福祉に対する取り組みは、非常に積極的であると思います。しかし、本町は人口減少・少子高齢化が急速に進んでいること、また、ゲリラ豪雨などの自然災害も増加傾向にあることから、より一層の取り組みが必要であると痛感しております。この様な中、先般、買い物支援の一環として一の橋公園において「こんびら朝市」を開催する運びとなりました。真の「共助社会」の実現への一歩であると大いに期待します。



評議員 氏家 孝志

100号を記念しての一筆となれば、事務局、スタッフ御一同の、労を思わずにご苦労様でした。ありがとうございました。少子高齢化、過疎化、地域崩壊、孤立化が進む中、すべての分野で「自己責任論」が、人々の暮らしに重くのし掛かっています。



評議員 丸岡 安

良き時代の地域と共にあった「お互い様」感覚と孤立化の中での「自己責任」という世情感覚とのずれには、重いものがあります。

折々に湧き上がる不安感、孤立感を癒すものは、人との繋がりや共存感だと思えるのですが、その繋がりをどう創り上げていくかが課題で、社協が、まさにこのことと取り組んできたわけですが、連絡網をさらに密にして、それこそ昔の「井戸端会議」的ネタ情報など、巷の声を、不定期便、定期便で届ける取り組みの定着化。その内容も、本人の愚痴や喜びなど、生の声に、親近感も連帯感も期待感も募り、伝達者への信頼も増すのではと…。

「福祉ことひら」100号記念おめでとうございます。誰もが安心して暮らせる町づくりに、事務局長、職員みなさんが一丸となって、数々のモデル事業、また補助事業に力を入れ推進している姿に頭のさがる思いでいっぱいです。長い間社協とかかわりボランティア活動を元気でできた事に誇りと喜びを感じております。何事も地域との連携と協力が一番大事です。昔のようなご近所とのつながり、絆を深めて福祉活動に力を入れて行きたいと思っております。



評議員 白川 サヨ子

広報誌も100号です。町社協のその時々の課題と成果、そして多くの先人が重ねてきた活動と努力の蓄積です。この間、地域社会や家族のあり様も大きく変容し、町社協にはより広範で、深化した役割が求められました。これからも、住民の皆さんはじめ福祉関係者、地域の各種団体の方々との理解と支えを得て、専門的な目線で課題を見つけ、行政との連携を密に図りながら、行政には難しい柔軟性を活かした対応を期待しております。

評議員 佐藤 克己

「社協に相談したら何とかしてくれる。」私たちの生活には、社協はなくてはならない存在です。毎号を拝見する度に社協の幅広い活動に感服致しております。恒例のチャリティーや榎の木フェスタ等、地域活性化の為に、住民を取り込む活動を積極的に提案し支援してくれています。これに答えるべく、私たちはできる時にできるだけの協力をして、自分たちで地域を住みやすくしたいものです。



評議員 池田 典夫

私は民生委員・児童委員の古参として、琴平社協の評議員に就いています。社協と民生委員は、福祉において重要な役割を担った表裏一体の関係です。

民生委員は地域の中で、高齢者や障害者、児童や生活困窮者などの情報を集め、時には相談に乗ったりして、その事を行政や社協に繋ぎます。

社協はいろいろな制度や事業の中で、その方々が幸せで安心して暮らせるよう力を添えて行く事になります。

社協と民生委員が共に力を合わせ円滑に福祉の充実が図れるよう微力ではありますが全力を尽くして参りたいと存じます。

評議員 西原 弘昌



理事 越智 和子

「100号ですか！」「はい」という会話からこの号の企画が始まった。創刊号に始まり、今では広報委員5人のチームで編集していますが、子どもから大人まで紙面には数知れず登場している町の人。それは住民みんなで地域福祉を進める道程がちょっとこぼだけ、切り集められている。そして「こんな言葉がきっかけで心が震え、体が動き出したんだ」「あの時のあの子が今、町をしょって汗をかいている」大勢で前に進む楽しさ、苦しさ。さて、次の1歩は。



評議員 山地 朗雅

福祉ことひらの今と昔を比べると、おらかな福祉活動から介護へ、または災害へと内容が変化しているように思います。全てボランティアの方々の支えがあって取り組めることです。ただ昨今において、ボランティアの年齢層が高齢化し、顔ぶれも毎回決まっていることに課題を感じます。

新たな挑戦をしながら携わっていただける方々の年齢層の若返りも一つの目標としていきたいと思っております。最後に掲載第100号を祝します。

「揺り籠から墓場まで」これが昨今の社協のガード範囲なのです。経済成長を以って繁栄とする国のツケは様々な末端に波及していますが我が町にも同様に町民の高齢化に伴う独居老人の増加と弱者達の明日は厳しいものがあります。「あなたがちょっと微笑むだけでいいのです。新聞を読んであげると喜ぶ目の不自由な人もいます。小さい事でもいいのです。そこから愛は始まるのです。」マザーテレサの精神で愛ある社会を築きたいものです。



監事 牧山 正三

この度は「福祉ことひら」100号を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

監事 竹内 眞理

1号から100号に至るまでの発行、大変だったと思います。今後も楽しい広報誌を届けられる事を期待しています。

「福祉ことひら」から見る 社協事業の変遷

1983 (昭和58) 年

- ▶ 法人化 (県内42番目)
- ▶ 家庭奉仕員派遣事業 (受託)

家庭奉仕員の制度が始まった頃はまだまだ家族が自宅で介護するのが当たり前前の時代でした。苦勞も喜びも家族で共有する強いつながりに敬意を感じながら、ほんの一部だけれど何かお手伝いができればという気持ちで訪問していました。当時はまだオムツも布の家庭もあった時代、介護用品や福祉用具が少なかったため、力帯をして二人でお風呂に入れることもありました。

また独居老人の名簿がでたらすぐに訪問し、継続的に定期訪問しました。当時は自動車がなく、雨の日も雪の日もこんびらさんの坂も自転車で走って、琴平じゅうを走り回っていた気がします。

家庭奉仕員が地域の皆さまから色々なニーズをいただき、サロン活動や生きがいデイサービスなど、社協の様々な事業につなげていくことができたと思います。この取り組みを是非今の職員にも引き継いでもらえたらと思います。
(白川 陽子)

1986 (昭和61) 年

- ▶ ボランティア事業 (住民参加のまちづくり)

「ボランティア活動に興味がある」住民の4人に1人 (調査結果)

1992 (平成4) 年

- ▶ 福祉委員委嘱 (第1期)

1993 (平成5) 年

- ▶ 配食事業開始



「福祉ことひら」17号より

1991 (平成3) 年

- ▶ 社協基盤強化計画策定
- ▶ 登録ヘルパー派遣事業

1989 (平成元) 年

- ▶ 第1回ワークキャンプ
- ▶ 食事サービス (会食) 開始

一人暮らしの高齢者が多くなる琴平町の住民として「地域でささえ合う。」という思いで、食生活改善推進協議会 (ヘルスメイト)、琴平町の三婦人会、週3回、ボランティアとして手伝っている。早いもので今年で30年目を迎える。

社協の職員の人たちも、栄養があり、バランスのとれたもの、旬のもの、また彩をと、気遣って毎月の献立を考え、手作りをモットーとしている。

食事サービス事業をして、町で声をかけられることも楽しみの一つである。やりがいがあり、元気をもらうことができ、ここまで続けることができています。

現在、高齢化がすすむことで作る人も高齢化している。若い人も力を合わせて、みんなで元気な町にしていきたいと思う。(横関 寿真子)

1997 (平成9) 年

- ▶ 「第1回こんびら地域福祉セミナー」開催



「福祉ことひら」36号より

1998 (平成10) 年

- ▶ 拠点「地域福祉ステーション」開設



「福祉ことひら」41号より

- ▶ 日常的金銭管理等支援サービス



31号から赤×黒の2色刷に。赤が入るとイメージが変わります。

32号からはA4版に。

1996 (平成8) 年

- ▶ ふれあいのまちづくり事業
- ▶ えんがわくらぶ

早期発見、相談体制づくり・住民参加のサービス



「福祉ことひら」38号より



「福祉ことひら」68号より

2009 (平成21) 年

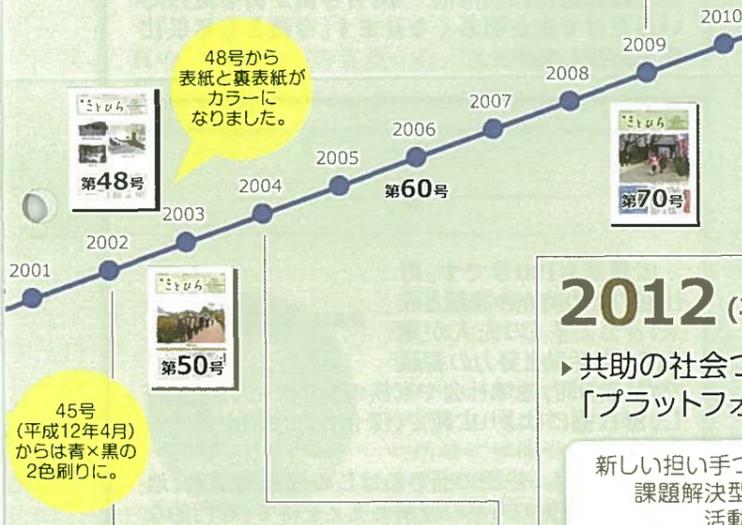
- ▶ ガリック娘販売開始



「福祉ことひら」71号より

2000 (平成12) 年

- ▶ 介護保険事業開始



48号から表紙と裏表紙がカラーになりました。

45号 (平成12年4月)からは青×黒の2色刷りに。

1999 (平成11) 年

- ▶ ひだまりクラブ活動

高齢者を中心にした小地域でのつながり活動



「福祉ことひら」43号より

- ▶ 毎日型食事サービス (配食事業受託)

2002 (平成14) 年

- ▶ 高齢社会先駆的的事业「ヒューマンサポート シェアセンター21事業」

安心安全な高齢社会づくり 一人ひとりの生きがいと社会参加

2017 (平成29) 年

- ▶ 「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けての地域づくりモデル事業

行政内部の連携、地域包括ケアの確立、地区ネットの活動支援、気軽な相談できる場の確保及び仕組みづくり

2010 (平成22) 年

- ▶ 安心生活創造事業

社会的孤立を防ぐ、地域の課題を把握して実情に応じた取り組みを実施企画する

2012 (平成24) 年

- ▶ 共助の社会づくり「プラットフォーム事業」

新しい担い手づくりの仕組みとして、課題解決型の住民発信による活動を生み出す

2004 (平成16) 年

- ▶ ちょっとこ場

「ちょっとこ場」開設時はこんびら山下ガイドの会の事務所等を設置してとても活気がありましたが、だんだんここを利用する人々が減ってきました。

日曜日には大勢の観光客がトイレを借りに立ち寄りますが、黙って入って来て用を足したら何も言わずに帰っていく姿を見ると、人のモラルの崩れを感じます。

ボランティアが減ってきて、ちょっとこ場の灯がつかない日が増えてきております。私は14年間頑張ってボランティアを続けてきましたが、ちょっとこ場を新しい活動にも利用していただき地域の拠点として活用されることを期待しています。(藤井 保)

- ▶ ゆうゆうクラブ

ボランティアのお兄さんお姉さん達が優しくだったので、ゆうゆうクラブに行くのがとても楽しみでした。勉強や遊ぶ時間などのタイムスケジュールが決まっているので規則正しい生活ができ休み明けでも体がしんどくなくなりました。遠足や夏祭りなどの行事もたくさんあったので飽きずに楽しめました。私が行っていた学校以外の人達も利用していたので、ゆうゆうクラブに行く度に新しい友達がたくさん出来たので嬉しかったです。私はゆうゆうクラブが好きなので小学校を卒業してからはボランティアとして参加しました。(琴平高校3年 奥田 悠)

2015 (平成27) 年

- ▶ はなの会



はなの会は元々花植えをしていたグループが、「楽集館」ができたことをきっかけに、そこを拠点に自分たちの好きなことをしようと集まったグループです。種から花を育てることは、時間もかかり大変なことたくさんありました。しかし、みんなで集まって作業することが楽しかったから、永年誰一人も欠けることなく心豊かに活動できたのだと思います。花植えをしていた私たちが、今は手芸で作った作品を出品しチャリティーにも協力できています。たくさんの人に買っていただきとても喜びを感じています。週に一回の集まりですが好きなことができ、話し、とても充実した時間です。今後も楽しく続けていきたいと思っています。(中川 ティ子)



2013 (平成25) 年

- ▶ 楽集館



「福祉ことひら」66号より

第100号

創刊号はB5版、白黒で始まりました。

第10号 表紙のタイトルは「ともに生きるまちづくりをめざして」。30年前から地域共生社会を目指していたことが分かります。

第1号

1984 (昭和59) 年

- ▶ 社協全戸加入推進
- ▶ 歳末チャリティー作品即売展継承



「福祉ことひら」7号



「福祉ことひら」101号へ向けての豊富

～ 広報委員からのメッセージ ～

<渡邊>
地域で様々な活動をされている“お宝人材”を発見して、みなさんにお知らせできたらいいなあと思います。

<大橋先生>
“単なるお知らせ版”じゃダメだよ！もっと読みたくなるような、動きのある広報誌を目指して頑張れ！

<森>
琴平社協では地域のボランティアさんの協力をいただき、高齢者世帯へのお弁当の配達をしています。私が毎日の配食のなかで感じたことをお伝えしていきたいです。

<永井>
テーマを決めて、連載ものの記事を書きたいです。また様々な課題や関心事にも目を向けて、分かりやすくお伝え出来たらと思います。

<川本>
琴平町社会福祉協議会には訪問介護事業所があります。支援が必要な方の自宅に訪問介護員（ヘルパー）が訪問して日常生活の支援をしています。ヘルパーの活動や感じたことなどを地域の皆様に紹介することができたらと思います。

<田中>
毎号住民の皆さまから様々なことを教えていただいたり、ご意見をいただいたり…福祉ことひらが住民の皆さまとつながる機会を与えてくれているように感じます。101号からはもっとインタビューに行き記事を作りたいです。



平成26年「ゆうゆうクラブ 春の遠足」



平成27年「おせち料理 配達ボランティア」



平成28年「ひだまりクラブ交流会」



平成29年「絵本文庫「どり〜む祭り」

活動紹介

「歌いま専科」～ 15年を振り返って ～

平成15年「歌いま専科」誕生

“歌いま専科”で毎回お世話をされている方々にこの活動を通して感じていることをインタビューしました。

設立した頃の常連メンバーは14・15人ほど。当初からのメンバーの多くが今も続けて来ています。以前はえんがわクラブを利用している方も10人ほど参加されていました。

メンバーそれぞれが声掛けしたり、誘い合ったりして、メンバーがどんどん増えてきました。今では30人を超える方が月2回(第2・第4水曜日)に楽しく歌っています。

設立当初から8年ほど、高野裕子先生にご指導頂きました。高野先生の熱心なご指導に、ときに厳しくもとても楽しい時間を過ごさせていただきました。高野先生から教えていただいた腹式呼吸法や発声練習は今も続けております。いつもそれを心掛けて、唱歌やその時期に合わせた季節の歌を歌っています。また東日本復興支援ソング「花は咲く」を応援の気持ちを込めて毎回歌っています。



思い出の写真(平成20年5月撮影)



平成25年からは豊田智子先生にピアノ伴奏をしていただいております。豊田先生の伴奏は歌いやすく、先生の力強い音色にとっても勇気づけられています。

童謡や唱歌を歌うと子どもの頃を思い出、懐かしく感じます。またみんなと大好きな歌を歌っていると日々のストレスも解消され穏やかな気持ちになります。

もし“歌いま専科”に参加していなかったら、こんなにも大勢の方と話をすることはなかったと思います。この活動を通して町内での顔なじみも増え、外に出る良いきっかけ作りにもなりました。

社協や沢山の方々のお力添えがありこの活動を続けていくことができ、感謝しております。

これからもみんなと歌って笑って楽しく過ごしていきたいと思っています。



(平成31年1月撮影)



共同募金(法人募金企業)報告



琴平グランドホテル桜の抄
 ホテルニューわたや
 (株)中野屋
 山西桂華堂
 つるや旅館
 池田内科医院
 (株)イケウチ電器
 (有)岡田工業
 ミヨシ電化
 道久テレビサービス店
 (株)コトヒラ公益社
 琴平塗装(株)
 おおにし病院
 船岡建設(株)
 大浦内科消化器科医院
 (有)西山食肉店

山田外科医院
 岩崎医院
 森内科医院
 塩田歯科医院
 宮武商店
 服部商店
 大中仏壇店
 オアシス税理士法人
 (有)中讃クリーン
 山野書道教室
 こんぴらうどん
 にしきや本店
 (株)琴平国際ホテル八千代
 名物かまど 琴平店
 琴参閣
 こんぴら石油(株)

(有)四国観光物産
 天狗堂土産物店
 岩佐病院
 やまもと耳鼻咽喉科
 (有)丸尾醸造所
 京兼醸造(有)
 五条眼科医院
 松浦餅店
 (株)百十四銀行

順不同

3,000円以上の
 募金をいただいた
 法人企業様を
 掲載させていただきます。
 ありがとうございました。

善意の寄付

平成30年10月1日～
平成31年2月28日

皆様からの善意の寄付は琴平町の地域福祉に有効に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。

一般寄付として

- 匿名様より 金一封
- 一般社団法人仲善教育会様より 18,093円



香典返しとして

- 坂田孝一様より 金一封
- 尾藤廣喜様・川添右之輔様より 金一封
- 池口正子様・大喜多剛様より 金一封
- 匿名様より 金一封



使用済み切手・テレカ・入れ歯 収集ボランティア

平成30年10月1日～平成31年2月28日

使用済み切手・テレカ・入れ歯回収ボランティア・物品寄付にご協力いただきまして誠にありがとうございます。お野菜・果物等のご寄附も頂いており、給食サービスに活用致しております。

- 大谷キヨ 様
- 奥野伊都子 様
- メガネのヨシダ 様
- (株)川上板金工業所 様
- 灸まん本舗 石段や 様
- 紀ノ国屋 様
- てんてこ舞 様
- 高橋朋子 様
- 榎井婦人会 様
- 匿名 様 3件

編集子のつぶやき

「記念になる100号にしよう！」広報委員一同、気合いを入れて頑張りました。ちょっと大変だったけど、100号分の思いを感じてもらえると嬉しいです。

井戸端通信

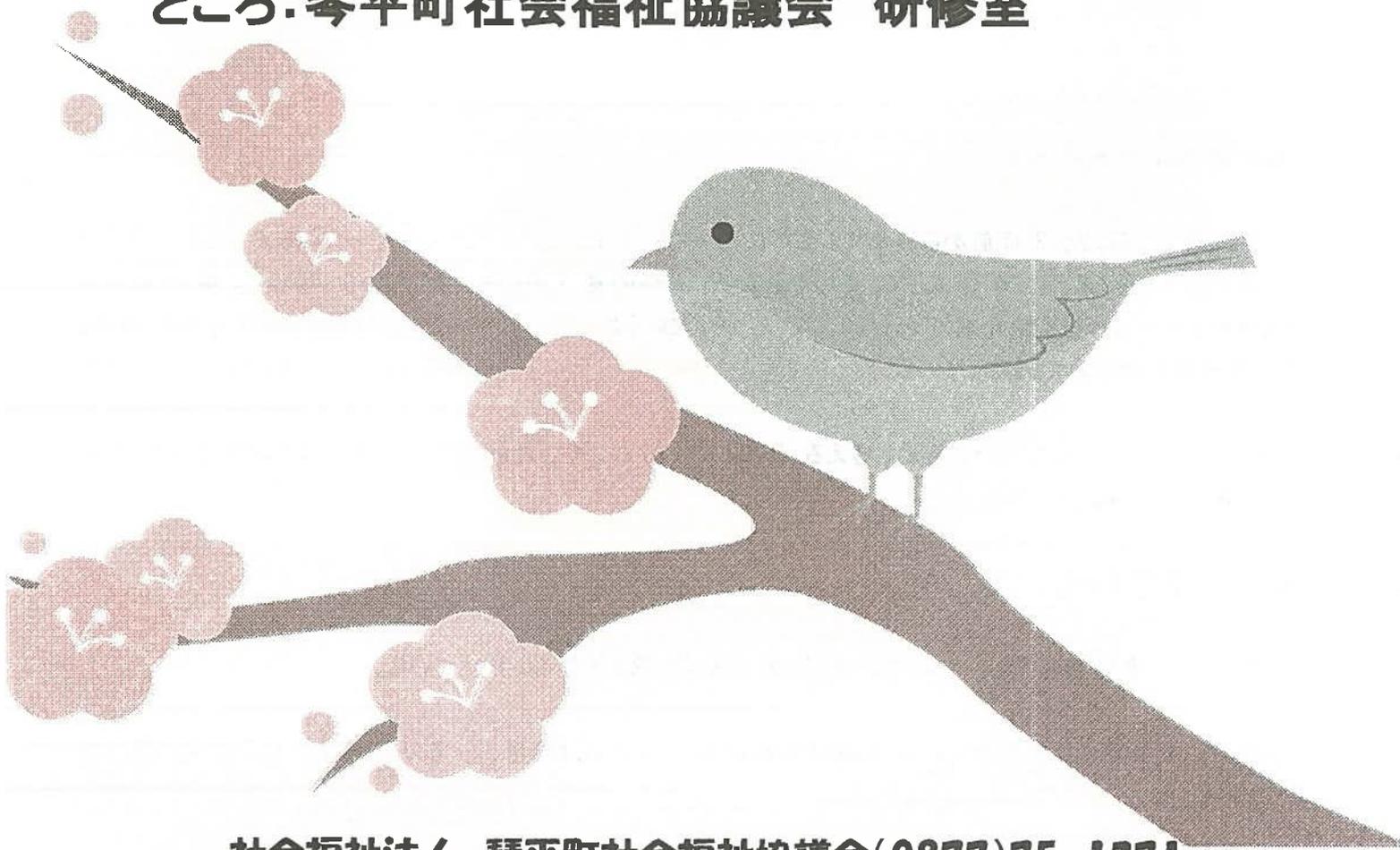
春めいてきました。ウキウキ気分で、ちょっと外に出てみませんか？ 琴平社協では毎月、介護に携わる方が集まって、気軽なお茶会を行なっております。認知症がある人、ない人、介護している人、されている人、話したい人、聴きたい人、どなたでも参加歓迎です。介護職等を交えて日頃の思いを話し、一息つきませんか。

日時：平成31年3月22日（金）

午後2時～3時30分

（出入り自由ですので ちょっとだけの参加もできます）

ところ：琴平町社会福祉協議会 研修室



社会福祉法人 琴平町社会福祉協議会(0877)75-1371

2月の井戸端会議 報告です

トークより抜粋（たくさんのお話の中から一部です。）

A: (初参加)寂しい、涙が出る。今日、誕生日で90歳になる。

G: 私と同年。私は3月で90になる。

F: 義母の介護をしているが、特に大変とは思っていない。近所に107歳、104歳の人がいるので義母の98歳は若い、元気。(Aさんに)一人で生活されて？家事も？

J: (和服姿で登場)大島、着てきたよ。

I: Jさん先月のこと覚えていた。先月、みんなが大島紬着てきて、と言っていたから。

J: バッグ自分で作った。(Jさんお手製のパッチワークのバッグが一周する。全員が手にとって見る。)

F: 若い頃、何をしていたんですか？

J: 国家公務員。そろばんはじいていた。今日の食事はイチゴをちょっと食べただけ。

ケアマネ: 一人暮らしの方にお配りするお寿司はどうでしたか？

J: ……

C: 私が作ったんですが…。

H: 夫が施設でいる。2~3日前から熱出て。会いに行っても「なんちゃって来んのやったら来んでええ」と言われる。私が行ったら、スタッフが警戒しているのがわかる。夫への食べ物を隠し持っていないか、と。本人は「死んでも食べる方がいい」と言う。食べれなくなって、どうぞ、というより、今、食べさせてあげたい。私自身の食事はボケ防止のため自分で調理している。

I: 5年したら自分がどうなるのか、最近、考える。5年したら87に。今、走れるが…。末っ子なので自分が悪くなったら誰が見てくれるんだろう？

B: そうやな。すごく考える。

C: 二人いたら食事作るけど、一人になると億劫。だから、取えて作るようにしている。

G: 血糖値の変動は、食べる物による。砂糖は吸収が早い。Hさんは糖尿、一方Jさんは『食べずに元気』というのは異例。

安心安全なまちづくりの一步



地域福祉懇談会を1月中旬～2月下旬まで開催してきました。皆さん熱心に協議され、地域に対する熱い心を感じました。(詳細は P3)

ステーション行事予定表 (3/17～4/20)

日	月	火	水	木	金	土
3/17	18	19	20	21	22	23
415のわ 絵本文庫どり～む 公会堂開館日 10:00～12:00		・生きがいデイ (手芸)	生きがいデイ (高瀬天然温泉)		・井戸端会議	
24	25	26	27	28	29	30
こんびら朝市 一之橋公園 9:00～14:00 415のわ10時～15時 公会堂開館日		・生きがいデイ (手芸)	うたいま専科 13:30～15:00	生きがいデイ (体操)		
31	4/1	2	3	4	5	6
415のわ おはなし会公会堂 10:30～		・生きがいデイ (手芸)		第10期 福祉委員 委嘱式		
7	8	9	10	11	12	13
こんびら朝市 一之橋公園 9:00～14:00		・生きがいデイ (手芸)	うたいま専科 13:30～15:00	生きがいデイ (体操)		
14	15	16	17	18	19	20
こんびら朝市 一之橋公園 9:00～14:00		・生きがいデイ (手芸) ・弁護士相談		生きがいデイ (体操)		第7回45番地食堂 匠の学舎 11:00～12:00

☆4月の弁護士相談(要予約)は16日(火)です。



一人じゃなくて誰かと一緒にみんなで地域社会づくり

「地域共生社会の実現」に向けてという言葉は平成28年「一億総活躍社会の実現構想(閣議決定)」から始まりました。その少し前、我が国の人口減少社会への対応、人生100年時代の言葉に驚いたのですが、そのもっと前の税制度の見直しや改革という用語が出るころから、国の根幹の部分で何かが動き始めたようです。

2月9日のシンポジウム「地域共生社会に向けて」は、琴平の住民による「地域福祉を考える住民大会」としてこれからの取り組みを参加者で共有し、活動に生かすことを目的に開催しました。この席上、ボランティア活動功労者として80歳代後半の女性が感謝状を授与されました。「もう出来んで」とおっしゃいます。にこやかなその顔に我々職員は勇気もらいます。現役のころから存じ上げています、現職の頃もはつらつとして若い部下を束ねていました。退職されてからは自然と地域の助成の活動に参加する姿に敬服しました。そして、今、光輝高齢者。

今回の大会は全体の参加者はいつもより少なかったです。自治会長さんが多く参加くだ

さいました。年齢的には50代以上、60代、70代の参加者が多いです。参加者アンケートからは「ささえ愛こびら」「こびら朝市」「地区ネット」についてよくわかった。自治会活動を含め、助け合い活動への理解を深めることが重要。奉仕の心を若い人につなぎたい、高齢者の「頑固」ともいえるものを言い続けたい。といった様な前向きのご意見が多くありました。これから、災害が想定される地域でお互い様の活動を家族だけでなくご近所で話し合う事をやりましょうという積極的な活動宣言もありました。

これからの、地域社会を考えるという目的のためにはもっと参加者が増えないといけません。地域をつくる活動をするためには知恵も要りますが、力の結集が必要です。今までの琴平町では、どこかで誰かがいつもボランティアで活動している町でした。これからは、誰がどこで何に取り組むのか。一人ではなく誰かと一緒に、社協や行政とも連携してみんなで地域社会をつくる、そういう地域福祉を進めることの大切さを学んだシンポジウムでした。

2月はこんなことしました。

視察来所

琴平の取り組みを学びに

- ① 2月18日(月)
新居浜市社会福祉協議会
内容：地域福祉活動
- ② 2月27日(水)
丸亀市社会福祉協議会
内容：ちょっとこ場について

新居浜市社協は地区社協の役員の方々が琴平社協の地域福祉活動について学びに、丸亀市社協は職員3人が、丸亀市の商店街で居場所づくりをするに当たり、参考にしたいということで、視察に来ました。

赤い羽根共同募金助成事業

ふれあい弁当配達事業

- ① 2月5日(火) 榎井地区
- ② 2月6日(水) 五條地区

毎年、町内各婦人会と五條あゆみ会が主に一人暮らし高齢者宅を中心に、手作りのちらし寿司をつくって、配達しています。食べた方からは「毎年楽しみなんよ」「量がいっぱい一回でや食べれなかった」と、感想を聞きました。安否確認を兼ねたこの事業は、年一回ですけれども、受け取る方、わたす方どちらにとってもお互いの安心を届けているのかもしれない。

第33回琴平町社会福祉大会

地域共生社会の実現に向けてのシンポジウム開催

開催日時 2月9日(土)
開催場所 琴平町文化会館

講師 文京学院大学准教授 中島 修氏
シンポジスト

ささえ愛こびら 代表 西原弘昌氏
五條互助ネット 会長 田中順一氏

第33回琴平町社会福祉大会を開催し、地域共生社会の実現に向けてシンポジウムでは、生活支援の体制を住民が考え、実践に向けて活動を行っていく「ささえ愛こびら」の代表の西原弘昌氏と、五條地区ネット会長の田中順一氏をシンポジストとして、実践報告をいただきました。

講演では、文京学院大学准教授の中島修先生が昨年に引き続いての講演で、昨年の福祉大会で、課題に上がっていたこと(図書館がない)が今年は解決に向けて動いている(まちじゅう図書館)と評価をいただきました。

アンケートでは、「ささえ愛こびらと互助ネットの活動がわかってよかった」「地域の中心で頑張っている人たちがこんなにもいることを心強く思うので、私も何かの力になりた



い」などの感想を多くいただきました。

第33回琴平町社会福祉大会表彰者

○会長表彰

1. 民生委員・児童委員功労表彰

氏名	担当地区
藤井 孝一 様	小松町・通町
大西 勉 様	横瀬
田中 順一 様	本條・本村西
伊藤 茂 様	西山
山下 マリ子 様	北野町南
牧山 明美 様	金沢町・南新町
造田 不二子 様	北野町北

○会長感謝

1. 福祉委員功労者

氏名	自治会名
澤井 美里 様	六西青葉自治会
川谷 萬里子 様	小松町自治会

2. ボランティア団体として積極的活動を行い、功績が顕著な団体で現在も活躍中のもの

団体名	活動内容
三水会	まち歩きボランティア他

地域共生社会の実現に向けてのモデル事業

地域福祉懇談会を全地区で開催

1月25日から開催してきた地域福祉懇談会を2月22日で全地区で終えました。毎年行っていますが、今年はほとんどの自治会から参加があり、とても有意義な話し合いができました。やはり、自治会長さんや福祉委員の皆さんは地域の実情についてとてもよく知っていて、私たちが知らないことを多く聞くこ

とができました。これからそれぞれの地区担当職員で意見の集約を行います。その後、地区ネットに提起し、来年度の取り組みについて話し合いをした後、実際の活動に取り組む予定です。

ご参加いただいた民生委員、自治会長、福祉委員の皆様誠にありがとうございました。



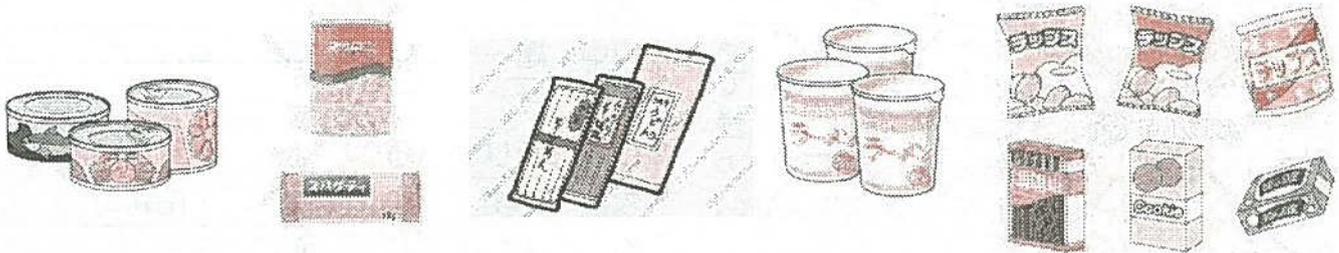
お知らせ

「もったいない」を「ありがとう」に。
「食」の支援にご協力をお願いします！

全国各地で行われている「フードバンク」に琴平社協も参加しています！

食べられずに棄ててしまっている食料を届けていただき、提供する活動をフードバンクと言います。香川県内にも利用する方、わかった！という方はいます。

ご家庭に眠っている下記の物をぜひ琴平社協にお届けください。皆様のご協力よろしくお願いします。



対象：缶詰、カップ麺、レトルト食品、乾麺、お菓子など常温保存できるもの
※賞味期限一か月未満のものや生もの、開封されたものなどは受付できません。

第10期福祉委員委嘱式

第10期福祉委員の委嘱式を下記の日程に行いますので、自治会よりご選出いただいた福祉委員の皆様はよろしくお願いします。

日時 平成31年4月4日（木）
9時30分～11時30分
場所 琴平町総合センター 大ホール

急募！中学生手作り ベンチ寄贈

今年も中学生3年生から手作りベンチが届きます。木製の温かみのある大変立派なベンチです。地域で使いたいところがありましたら社協までご連絡ください。なお、引渡しは3月25日以降になりますので、ご連絡いたします。

ちょっとこ場行事予定表 (3/17～4/20)

楽集館利用予定表 (3/17～4/20)

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
3/17	18	19	20	21	22	23	3/17	18	19	20	21	22	23
		稲穂会 (写経) 10時～	サンサンサロン			脳トレ 13時～		はなの会			個人 16時～19時		
24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30
	NikoNiko (横井写経)	稲穂会 (写経) 10時～	豊作会 (写経) 10時～	あさひ会		脳トレ 13時～		はなの会					
31	4/1	2	3	4	5	6	31	4/1	2	3	4	5	6
	NikoNiko (横井写経)	稲穂会 (写経) 10時～	豊作会 (写経) 10時～			脳トレ 13時～		はなの会					
7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
4.15のわ 定例会 10時～13時	なでしこ会	稲穂会 (写経) 10時～	豊作会 (写経) 10時～	ふれあいコンサート 13時～	布で遊ぶ会	脳トレ 13時～		はなの会					
14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
	NikoNiko (横井写経)	稲穂会 (写経) 10時～	サンサンサロン			脳トレ 13時～		はなの会					

※ちょっとこ場や楽集館を利用したい個人・団体は琴平社協までご連絡ください。

琴平町文化協会だより

題字 山野象東 第23号

琴平町文化協会の皆様、平素は町民文化活動や芸術の振興や普及活動など、多方面にご活躍いただいておりますことを衷心より御礼申し上げます。



平成から新時代へ

琴平町長

片岡英樹

今年、平成から新しい時代に変わる節目の年となります。皆様にとって、この三十二年間はどんな時代だったでしょうか？ 私たちが歩んできました。振り返ると、好景気に沸いた、いわゆる《バブル景気》

トやスマートフォン等の新技術の急速な普及など、人々の営みや価値観が大きく変化した、激動の時代であったとい

と、その崩壊。東日本大震災をはじめとした大規模な自然災害の発生。人口減少・高齢化社会への突入。インターネットを機に時代は大きな区切りを迎えます。今年五月の元号の改元を機に時代は大きな区切りを迎え、私たちは新たな時代への第一歩を踏み出すこととなります。

大切なものを守りながらも、変わり続けること、動き続けること、これは町が停滞しないためには必要なことです。《街の空気》を明るく変えていくためにも、文化の先導者の皆様には、ぜひ、これからも活躍いただき、新しい時代の町づくりを、お願い申し上げます。



瀬戸の海

洋画 佐武 久美子(愛宕町)

★平成時代も春の新しい元号発表と共に終え、五月一日に皇太子殿下が即位される。新しい御代になる。

★三年に一度の瀬戸内国際芸術祭も四月二十六日から十一月四日までの百七日間が始まる。

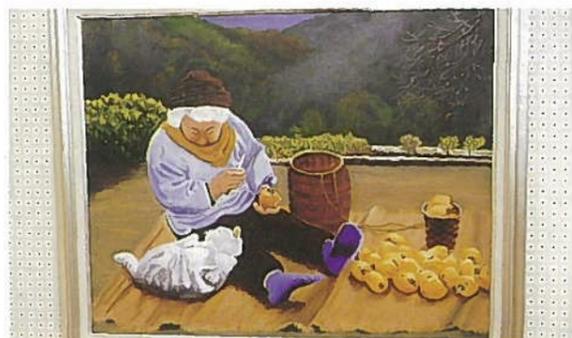
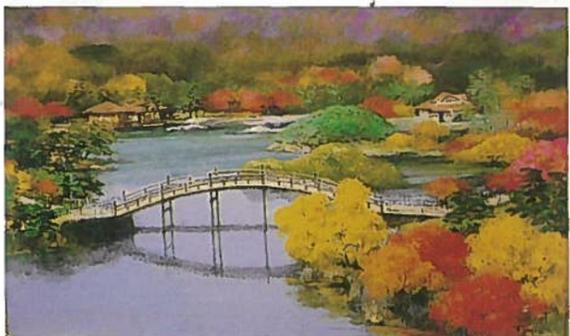
そして春のこんぴら大芝居で町は大勢の人を迎え賑わうであろう。

★上檜梨にある健脚の守り神、片岡伊賀守道高の没後四百四十年を迎える。顕彰三十四年目のことはぜひ、いだてんの放送にもあやかり、健脚まつりの実現を願っている。

あれこれと思い描く希望の春に幸多かれ。

(片)





第三十七回 作品展示 10月25日～12月4日 ACTことひら
 芸能発表 11月18日 町立文化会館

琴平町文化祭

天災が日本列島を駆けぬけ
 猛暑も過ぎ、祭りが終ると文
 化の秋の到来である。
 第三十七回琴平町文化祭は
 平成三十年十月二十五日(木)
 ACTことひらで開催。
 来賓には片岡町長、篠原教
 育長、眞鍋議員、生涯教育課
 ・細川課長のご出席を賜り盛
 大に幕をあげた。
 オープニングショーは古典
 伝統芸能三味線同好会の出演
 で「よさこい節」他を演奏。
 出席者全員による踊り「炭
 坑節」「こんびら舟々」で華
 を添えた。

一期Ⅱ文芸、書道、写真
 二期Ⅱ四地区連合婦人会
 三期Ⅱ教育委員会、茶道、
 賢人会料理教室
 四期Ⅱ切り絵、絵手紙、
 華道
 五期Ⅱ書道
 六期Ⅱ絵画
 ステンドグラス

芸能発表の部は十一月十八
 日(日)快晴の菊日和、文化
 会館で開催。一年間の練習の
 成果を発表した。

出演グループは、ラ・ラ・
 ラびあのクラブ、ハッピービ
 アノクラブ、榎井小学校、若
 藤会、燕石吟詠会、気功同好

会、日舞つき会、フォーク
 ダンス・ヒロ、尺八同好会、
 坂東流佳津美会、こんびら民
 踊同好会、琴平泰慎吟詠会、
 琴修会さぬき琴平支部、こん
 びら三味線同好会、こんびら
 民謡保存会・琴平婦人会民踊
 部、こんびらコーラスグルー
 プ、琴同好会。
 平成の年最後になる芸能発
 表は素晴らしかった。
 弘法大師和讃より「空海」
 を琴、三味線、コーラスでコ
 ラボ、人としての空海、仏と
 しての弘法大師この両面を見
 事に表現、満席の会場は拍手
 が鳴りやまず感激した。
 今、急速な高齢化時代とは
 言え、出演者の皆様から元気
 と感動をもらい、歴史の街こ
 とひらならではの文化祭であ
 った。
 世界に一つしかない作品、
 学びつづける姿勢、来年は新
 しい元号、どんな作品、舞台
 に出逢えるか今からワクワク
 している。

〈爲〉



随想

クルーズ船「ロストラル号」での
 歓迎演奏を終えて

今田 一義 (苗田)

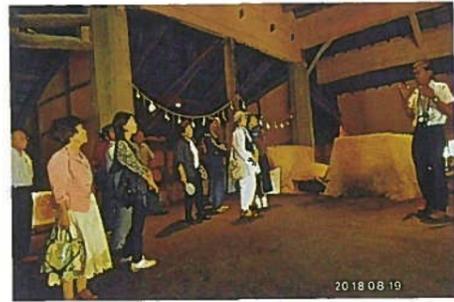
豪華客船で世界一周したい
 夢はあったが、まさか大型ク
 ルーズ客船で外国の人々に邦
 楽演奏することなど夢にも思
 わなかった。

昨年五月、香川県文化振興
 課から「フランスの客船が高
 松寄港時に船内イベント広場
 で邦楽演奏は如何ですか」と
 我が家に依頼の電話があった。
 出演依頼には迷ったが一生
 に一度のチャンス、冥土の土
 産に勇気を出して引き受けた。
 県は歓迎のおもてなしに、
 伝統音楽・文化の書道・折り
 紙体験・着物着付けなどの中
 から邦楽演奏を選んでくれた。
 選曲や練習で本番まで二十
 日間しがなく、慌ただしく連
 絡調整に追われた。
 船内はフランス国なので事
 前にバスポートの写しを提出
 し、当日は提示して検問を受
 けて乗船。案内されたステー
 ジや控室の照明、音響、化粧
 室は整理整頓されていた。
 舞台上で音合わせ演奏準備中
 に突然、浜田県知事が寄港歓
 迎の表敬訪問の途中でお越し
 になり、激励の言葉をもらっ
 た。「平日頃の練習の成果を發揮
 して下さい」
 船内スタッフと打ち合わせ、
 紹介が始まったが、日本語か
 ら英語、フランス語と通訳す
 るのでなかなか演奏本番に入
 れず少し戸惑った。
 観客は高齢の夫婦が多い。
 演奏曲は瀬戸の明るい波の
 穏やかな(春の海)波と戯れ
 るあどけない(千鳥の曲)な
 ど、日本の邦楽の代表的な五
 曲を奏なでた。
 少し緊張したが、十七時三
 十分ごろ、総勢十一名の演奏
 は終わった。
 「あつ」と言う間の貴重な
 体験だった。
 夕暮れの瀬戸の海は穏やか
 で安堵した気持ちと重なり、
 とても美しく綺麗に見えた。

終戦と共に消えた謎の製鉄技術。「たたら製鉄」の当時の仕事を、昔のたたら師達が復元したビデオは圧巻であった。一子相伝の村下（技術責任者）たちによる経験と勘だけで、砂鉄を4トンの鉄の塊までに仕上げる炎との戦い。



江川 朝世

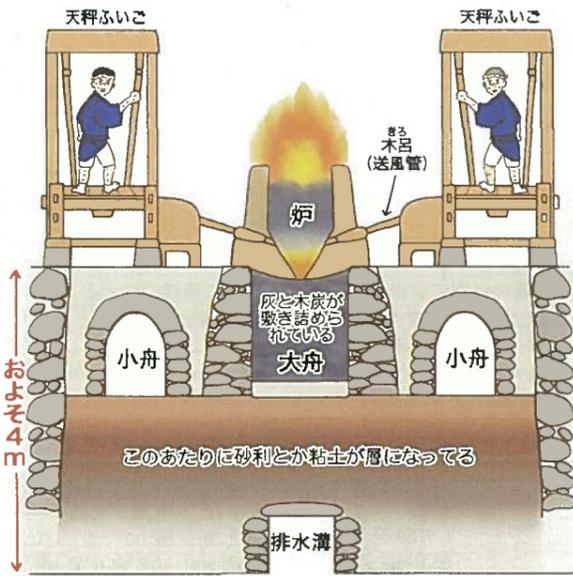


2018.08.19



絵手紙 石川 和子

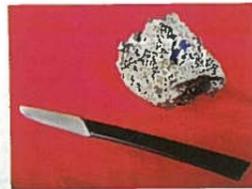
奥出雲、吉田町。鉄の歴史に触れ、まことに良いものを見たと喜ぶ。



たたら師たちの仕事は、炉の下に深さ4メートルの複雑な地下構造をつくることから始まる



2018.08.19



吉田産和鋼小刀と和鋼

今回、神話の国出雲方面へ旅する機会を得た。雲南市吉田町は松江藩の鉄師を務めた田部家の企業城下町として栄えた。鉄は農業をはじめ、工業製品や社会生活に大きく貢献して、昔も今も人類の発展に長く関わってきた。その重要な製鉄の歴史博物館等を見学できて大変感動しました。

渡辺佐和子

たたら製鉄に出てくる難しい用語の解説集

- たたら製鉄**
大陸からタタール人によって伝えられたとも言われる伝統の製鉄技法
- ケラ**
3日3晩の作業の末に取り出すことができる鉄・鋼・銑鉄の塊
- スク**
鋳物などに使われる銑鉄
- ノロ**
砂鉄と土壁が反応することで発生する不純物
- 玉鋼(たまはがね)**
日本刀の材料になっていた上質な鋼
- 鉄穴流し(かんながし)**
山を切り崩して砂鉄を採取する方法
- 天秤ふいご(てんびんふいご)**
板を踏んで風を送り込む装置
- 村下(むらげ)**
秘伝の技を知るたたら製鉄の最高技術責任者
- 番子(ばんこ)**
交代で風を送り込める役割を担った人
- 鉄師(てし)**
松江藩に任じられた、たたら製鉄の経営者
- 高殿(たかどの)**
製鉄作業を行った工場的な建物

第二十一回

歴史と文学の旅

加茂岩倉遺跡・たたら製鉄で栄えた町

平成三十年八月十九日。琴平町文化協会主催第二十一回「歴史と文学の旅」は島根県へ。参加者二十五名。

午前七時半、バスで町役場を出発。瀬戸大橋を渡り、岡山・中国・米子・山陰道を経て、まずは松江市・宍道湖畔の皆美・ふじな亭で昼食。珍しい家伝の「鯛めし」を味わった。

昼食後、雲南市へ移動。平成八年、農道の工事中に弥生時代の銅鐸が三十九個も発見された加茂岩倉遺跡を見学。大きな銅鐸の中に小さな銅鐸を納めた「入れ子」状態の埋納は調査上、初確認とのこと。

次に吉田町の古い街並みを散策。菅谷たたら高殿では、たたら製鉄・鋳・銑・鉄滓・玉鋼・鉄穴流し・天秤ふいご・村下・番子・鉄師・高殿など、難しい用語の丁寧な解説で、



入れ子



同范銅鐸

江戸時代初期にその原型が完成した「鉄づくりのルーツ」を学び、その厳しさや奥深さを知った。菅谷たたらは全国唯一、高殿様式のたたら場の姿を残しており、この技法はアニメ映画「もののけ姫」の題材にもなっている。連日の猛暑に加え、西日本豪雨など異常な天候の夏だったが、いくぶん暑さの和らいだ一日。どの施設も見応えがあり、地元ボランティアがガイドのユーモアを交えた説明に、多くの驚きと感動を覚え、有意義な旅であった。(川)



今回初めて参加させていだきました。長い年月から思うとつい最近に加茂岩倉遺跡が発掘されたのもすごい事だと感じました。たたら製鉄の作業工程も色々工夫されて出来た事もこんな歴史が島根の山の中であつた事も初めて知り有意義な一日でした。ありがとうございました。

鈴木恵美子



絵手紙 石井 輝夫

出土の銅鐸三十九個。ルーツは中国。朝鮮半島から伝わった青銅器(家畜の首につけられていた小さなベル)が弥生時代前期の終り頃に作られる祭りの道具として使われるようになる。次にたたら製鉄、製法がもれないように親方(田部家)が一手に引き受けた。また、鉄の歴史博物館屋根の柿葺きは見事。残暑厳しかったですが先人の智慧に感動した。

古川早智子



室町時代以前から奥出雲吉田地区にタタラ製鉄で栄えた町がある。また加茂岩倉遺跡からは銅鐸が多量に出て来てまだいろいろ解明されていない所が、なかなかいい機会をつくって頂きありがとうございました。

石井 輝夫





山野書道教室

三人の子どもと一緒に、また巣立った後も、週一回墨の香に包まれひたすら書いた三十年。仕事を忘れ字を書く喜びにひたつた書道教室である。今も書道誌に清書を出し続け、ようやく特待生や準会友にまでなれた。近く香川を離れるが、書は続けたいと思う。先生方に感謝でいっぱいである。(山下 美津子)



絵遊会

第二・四の水曜日の夜、文化会館で石井先生から絵手紙と切り絵を習っている。皆それぞれ個性が出て上達しているようだ。作品展も時々あるので、それが励みにもなっている。会員同士が仲良くなって、出合いが楽しい会である。(眞鍋 勝美)



目舞さつき会

今年もメイン舞台である文化祭を無事終えた。体調をくずした人がいて寂しい練習となった日もあったが、慰問など数カ所で披露することができた。歌謡曲に合わせての目舞は親しみやすくよい。木曜三時から総合センターの練習に興味のある方は覗いてみてください。(皐月 茂美)



こんびら三味線同好会

慰問や他県での演奏、文化祭などに参加し演奏している。相変らずの少人数だが、月二回の練習は楽しい時間である。尺八の方々の協力もあり、本番の演奏が華やかになることは有難い。是非、練習を覗きにきて下さい。参加お待ちします。(今田 節子)



こんびら俳句同好会

岡田先生を迎えて、少人数ながら俳句を楽しんでいる。燕石像を眺めながら一句一句がまるでその時代を歩んできたかのように初心者にも、心安らかに移ってくる。俳句はまず、身のまわりから目に入つたものを五・七・五と並べる。句会は第一・二火曜日、一時半から榎井公民館で。(安部 久子)

こんびら民謡保存会

春、こんびら大芝居を彩るお練りの先頭役で参加。秋、琴平小学校運動会でこんびら舟々の踊りの指導。例大祭では民謡を披露。文化祭にも出演、師走には琴平老人の家を慰問し歌や踊りをプレゼントした。春夏秋冬、こんびら舟々と過ごす一年の日々である。(牧山 明美)



こんびら民謡同好会

唄あり、踊りあり、笑いありの同好会である。全国津々浦々から私たち好みの踊りを、中田善子先生が指導。一年かけて仕上げ、踊れるようになったときの喜びは大きい。踊りの好きな人寄っというので、毎週月曜日 午後一時から文化会館にて(大西 文子)

象頭かな書道同好会

万葉集の世界を学びながら、文化祭の作品作りに汗を流す。出来栄には一喜一憂するが、励まし合える仲間ができること、練習の合間のお喋りに花が咲くこと、どちらも楽しみである。是非お気軽にご参加下さい。練習は毎月第二・四金曜日。午後一時半から総合センター。(佐々木 君江)



木もれび

美しい言葉で、やさしい文章を描こうと勉強している。ことしは、川柳や短歌も試みはじめた。お仲間になってください。第二土曜日、午後一時から総合センター二階にて。(大橋 邦子)

2018.8.15 平和祈願灯ろう流し



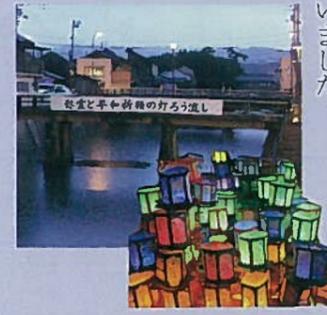
今日は八月十五日。終戦記念日です。ここ琴平町では、金倉川で毎年灯籠流しが行われています。私は、灯籠流しについて今まで関心がなく、その意味を深く考えることがありませんでした。調べてみると、灯籠流しは、広島県に原爆が落とされ、亡くなった方の供養のために始まったそうです。琴平町でも戦争で亡くなった方の供養や平和への願いをこめて行われています。私は、今年初めて灯籠流しに参加することになり、この機会に戦争について考えてみることにしました。

まず私が戦争と聞いて思い浮かぶのは「はたらくの墓」という有名なアニメ映画です。お母さんに勧められて一緒に観ました。とにかくこわくて、かわいそうでした。まだ小さな子どもなのに親をなくし、食べるもの

もなく、最後には命を落としていきました。自分もその時代に生きていたらと思うと、こわくて悲しくなり、心がおしつぶされそうになります。でも戦争を知らない私たちに、本や映画は当時の様子を知る手がかりになります。私は読書が好きなので時々戦争の話も読んでみたいですね。

今年で戦後七十三年になります。今、私は戦争のない世界で暮らしています。毎日学校へ行き、勉強をしたり、給食を食べたり、友だちと遊んだりします。家では、家族と食事をしたり、いっしょに出かけたりします。それは当たり前で、感謝することはありませんでした。しかし、今の平和な生活があるのは、悲かな戦争を経験し、二度と同じことを繰り返さないという思いのもと、先祖の人たちが、少しずつ今の日本を作ってきたからです。今の平和が当たり前ではないことを私たちは、決して忘れてはいけません。

今でも世界の様々な場所で戦争が起きています。なぜ世界から戦争はなくなるのでしょうか。たくさんの人が考えて行動してもなくならないのは、きっとものすごく難しいことだからなのでしょう。でも、戦争が始まるおおもとは、様々な資源や食料を独りじめしたいという気持ちからだと思います。少しずつでも話し合っていければ、戦争にはならないのではないのでしょうか。



フォークダンス・ヒロ

片山允子先生の指導でモーニングストレッチから始まる。ゆつくり体を動かすと身心共にほぐれていく。年を重ねて足腰に不安を抱えながらも気持ち前は前向き、休憩をとりながらの二時間を楽しく過ごしている。

一緒に練習しませんか。第二・四水曜午後一時〜三時、総合センター。

(鈴木 禮子)



こんびらコーラスグループ

昨年の八月十五日、五十回目となる平和祈願灯籠流しにてゲストとして参加。

『上を向いて歩こう』『無縁坂』の三曲を雨の中しつとりと歌い上げ好評を得た。毎週金曜日八時より琴平町文化会館にて練習。

(高木 志郎)



華月流華道教室

片桐恵美子先生のご指導で、毎月第一・三木曜日午後三時より琴平町総合センターで稽古をしている。

琴平町文化祭では十六名、金刀比羅宮例大祭奉納生花展示会では七名が出席した。稽古の後の茶話会は楽しく話がつきない。いけ花に興味のある方一緒にしませんか。

(内田 久恵)

青澄かな書道

今年の文化祭は平成最後ということ、一人ひとりが平成時代への想いを言葉にして風船に書き、大空に飛ばすイメージの共同作品になった。

大きな字を書くことで、のびのびと自由に書く楽しさが少しずつわかってきたように思う。練習の合間のおしゃべりも楽しみのひとつだ。

(森 悦子)

坂東流佳津美会

こんびら歌舞伎の際には、お練りに毎年参加させていただいて楽しみにしている。

芸能文化祭は、日頃のお稽古の成果を発揮できる場、そして他の芸術にふれるとてもいい機会である。今後も日々のお稽古を積んでいきたい。

(坂東 櫻子)



気功同好会

金曜日の夜は、疲れていても教室に行きたくなる。まずは合掌、リンパマッサージ、呼吸法、柔軟運動、そして太極拳。

先生のお話で心が穏やかになり、先輩たちとの談話で帰りには元気になり、又明日も頑張ろうと思う。

(今井 芳江)

双葉会

予想外の災害や、異常気象が続いて、微妙な四季の移ろいを見逃す事が多くなった。

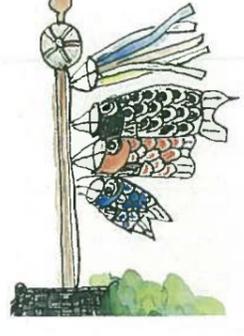
月一回、五句を持ち寄り開く句会が、細々と続いている。平均年齢も高く、人生経験の豊富な仲間たち。自然の美しさの中に、人生の喜怒哀楽を組み合わせ「生活のうた」を元気に詠い続けたいものだ。

(佐野 千代子)

若藤会

若藤会は幼児から高齢の人們が練習に励んでいる。月に十回、私は自分の行ける日に稽古をしてもらっている。春はお練り、秋は文化祭に参加している。舞台上立つという緊張感が私にはよい。体の動く間は頭の体操と思いつの年の文化祭に向けて練習をしている。

(森口 励子)



囲碁同好会

我が同好会は次の通り碁会を開催しておりますので、老若男女棋力を問わずご参加を歓迎致します。

碁会は、毎週土曜日、午後零時半から五時まで総合センターで。

(大西 隆男)



琴同好会

平成三十年琴平町文化祭演奏曲『空海』は、こんびらコーラスグループとコラボした。本番においては、二つのグループの心が一つになり、楽しい演奏が出来た。私が初めてお琴を弾いた時の感動を今も覚えている。体験レッスンに来てください。一緒に楽しくお琴を弾きましょう。

(越智 友子)

尺八同好会



尺八都山流は昭和八年に創始、昨年は創立八十五周年を迎えて記念演奏会を開催した。観客で満席となり大きな喜びであった。

毎年、琴平町文化祭への参加を励みにし、各地域の演奏会や護国神社の献奏なども行っている。

練習は毎金曜日、午前九時半から榎井公民館で、新しい曲にも挑戦し、和気あいあいと尺八の音色を楽しんでいる。

(山本 保)

琴修会さぬき琴平支部

二〇一九年の新年に元氣いっぱい仲間が集まった。

早速、大正琴の練習を開始。日々の生活に追われ、脳の回転も鈍くなりがちだが年齢や体力に抵抗を続けよう。

婆さん力を発揮し、ことし秋の文化祭に良い音色の大正琴演奏を届けよう。大正琴仲間募集。

(直井 初美)

写遊会・彩

氏家圭三先生のご指導のもと、春は曙、夏は芙蓉の花、秋は里の黄昏、冬は参道の雪など四季を写真に収めている。

撮影するうち、景色や建物がどんどん変わり、人の歩きもあわただしくなり、人の世の移り変わりを感ずる。最近カメラ機器の性能があり、中高年のカメラ愛好者増は喜ばしい。

(大西 徹野)

泰慎吟詠会

私たちの会は高齢の人が多い。先人の詩を吟じ腹式呼吸によって健康を頂いている。何より楽しいことは、みんなとおしゃべりすることだ。

発表会が近づくと練習にも熱が入り生涯学習で始めた詩吟によって生きる力をもっている。毎週月・木曜、一時より、文化会館。

(今井千鶴子)



双葉会

予想外の災害や、異常気象が続いて、微妙な四季の移ろいを見逃す事が多くなった。

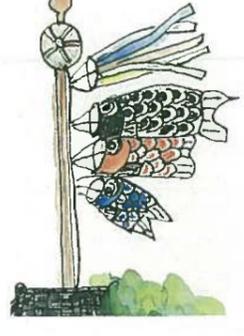
月一回、五句を持ち寄り開く句会が、細々と続いている。平均年齢も高く、人生経験の豊富な仲間たち。自然の美しさの中に、人生の喜怒哀楽を組み合わせ「生活のうた」を元気に詠い続けたいものだ。

(佐野 千代子)

若藤会

若藤会は幼児から高齢の人們が練習に励んでいる。月に十回、私は自分の行ける日に稽古をしてもらっている。春はお練り、秋は文化祭に参加している。舞台上立つという緊張感が私にはよい。体の動く間は頭の体操と思いつの年の文化祭に向けて練習をしている。

(森口 励子)



いろりの会

教室に入って何年になるだろう。上達しない自分の作品になぜか心癒される。

年間に何回かの作品展示がありその都度あわてて書いている。今年も頑張ろう。練習日、第一木曜、午前十時から十二時、総合センター。

(森末 和枝)



四地区連合婦人会

琴平婦人会

私たち琴平婦人会は、町の行事、社会福祉協議会のお手伝い、歌舞伎のお練り、日赤募金、一人暮らしの人への弁当作り、敬老会、チャリティバザー、文化祭に出演、ひな寿し作り、老人ホームの慰問などに参加している。皆んな仲よく一丸となり頑張っている。

(大平 順子)



榎井婦人会

のびのび体操部では、体をほぐしながら関節を鍛え、楽しくやっている。

指導はヴィスポの先生で、会員たちの冗談に合わせ、リズムよくやってくれる。脳の方もすっきりする。

榎井公民館で第一・三水曜日十時より

(安部 久子)

紙上作品展



京押し絵 わらべ大名行列
川谷 萬里子 (小松町)



書道 敬天愛人 西郷どんの言葉
池田 町子 (榎井)

切り絵同好会

石井先生と仲間たちで毎月第二・第四水曜日十時から二時間総合センターで練習をしている。秋の文化祭と普通寺市美術館での展示会の作品作り。時々近くの美術館に先生と皆で見学に行ったり昼食会に行ったりと、楽しく和やかである。皆さん、いっしょに参加してみませんか。
(渡辺 佐和子)



琴平書道同好会

入会して十年。漢字、近代詩文、実用書、硬筆をこつこつと練習し毎月提出している。褒め上手な先生と笑顔の絶えない仲間を支えられ楽しく続けられている。現在会員六名。練習は毎月第二月曜日・第三水曜日午後一時半から三時まで総合センターで。
(池田 町子)



燕石吟詠会

大正八年に「燕石会」が発足し、昭和三十八年に、吟詠部が出来た。先輩たちの意志を引き継ぎ、郷土の偉人日柳燕石翁を学びながら、詩人として残した多くの漢詩を吟じ、顕彰するために活動している。仲間になりませんか。
練習は榎井公民館で毎水曜日七時半から。(鈴木 浩)

ハッピーピアノクラブ

初めての人、少し経験のある人、皆で心を合わせ演奏する楽しさ。先生の明るい指導進行のお蔭で脳トレを実感しつつ、ピアノの音色に心が癒されている。文化祭のあと参加者も増え、次のミニコンサートに向けて練習を続けてい

ペン画クラブ

平成終わりの年十二月十七日、百七十回目の練習を迎えた。大西先生の指導で文化祭や町内の銀行に展示ができた。何を描こうか思案しながら車の窓から見えた風景や、雑誌、ポスターなど印象にとまったものを描いている。いつまでも仲間らと描き続けたい。練習日は毎月第一・三月曜。十三時三十分からアクト於
(小亀 清美)

丸尾安子氏逝く



琴平町文化協会会員であり前会長の丸尾安子氏が、平成三十一年一月永眠されました。六年間にわたり会長役を果たされたほか、書道界の重鎮として広く活躍され、多くの功績を残されました。ありし日のお姿を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
合掌

随想

猪突◎進



金丸 洋子 (苗田)

ひとびとで賑わう繁華街を我が物顔で駆け回るイノシシの映像がニュースで流れた。【少しお淑やかにできないの】年女のわたしから一言。だがまさに猪突猛進中の彼らは聞く耳をもたないようだ。そこで初詣は一風穴場と思われ京都護王神社に向った。早速、入口左右に狛犬ならぬ猪猪のお出迎え。手水舎に進むと真っ黒でちよつと怖そうなのが、大きな口をあげ鎮座している。けれど、そこから溢れだす澄んだ水に、心と身は清められた。護王神社は奈良時代、和氣清麻呂が勢力争いで刺客に襲われたとき、三百頭の猪が守ったと言われ、通称イノシシ神社と呼ばれている。神苑を一回りするほどの参拝者の列に呆れたが、年女は欲張って沢山のご利益を得ようと不埒な考えが横切る。祀られているたくさんの猪の鼻を撫でると縁起がいいと言う。焼物製や青銅造りそれぞれに特徴があるが、表情豊かなイノシシたちに、なぜか、親しみをも感じてしまう。「十二年後の亥年も、その愛嬌顔で参拝者を迎えてね」名残り惜しく神社を出た。ことは年号も新たに飛躍の年になるだろう。万博も半世紀振りに大阪で開催されることが決定的だ。前回EXPO70で四カ所日本庭園が設営され四季折々の草花や鯉の放流で日本趣向が表現された。お茶席は毎日、四十流派が作法を披露した。わたしたちも一日だけお点前をした光景を思い出す。「幸せは自分の心が決める」相田みつお氏の言葉を胸にわたしらしく歩みましょう。【猪突迷進!!】

賢人会料理教室



[17]

昨年十二月十九日、榎井旗岡賢人会館で行っている料理教室におじゃました。

賢人会館とは旧榎井村出身の日柳燕石、香川昇三、長谷川佐太郎三賢人の功績をたたえた記念館で、今は仮設中。

(健全な食は生命にあり)の教育方針をもつ食育の先駆者香川昇三氏の女子栄養大卒、塩田弘子、秋山和子両先生の指導で平成二十五年からはじまった会員二十名の料理教室である。

お正月も近づいたので、黒豆・数の子・牛肉の八幡巻きなど手ぎわよく、和気あいあいとお節料理を作っていた。



市販のお節が氾濫しているいま、すべて手作りの料理がお正月の食卓に並ぶ光景が目にかんでくる。あたたかい気持ちで、会館をあとにした。
教室 毎月第三水曜日
賢人会館 十時から
(横)



入会のおすすめ
 こんぴらの文化を広め
 さらに高めましょう

会員募集中
 (年間会費)

- ・個人…………… 1,000円
- ・団体…30人まで 3,000円
- 31人以上 5,000円
- 101人以上 10,000円

・申し込み先
 琴平町教育委員会事務局内
 琴平町文化協会
 (75) 6716

アクト
ACT こんぴら
 平成30年の利用状況
 (平成30年1月～12月まで)

期 間	展 示 内 容	
1月6日 ～1月26日	琴平高校芸術祭	638人
2月2日 ～3月10日	ひな祭り展	1,150人
3月17日 ～3月31日	モロトリアム写真展	228人
4月2日 ～5月6日	雅・写真と書展	674人
5月10日 ～5月31日	こども書道展	461人
5月27日	箏せせらぎ会 街かどコンサート	86人
6月3日 ～6月30日	KENの会写真展	721人
7月10日 ～8月5日	絵手紙展	355人
7月14日	七夕会 (琴平町社会福祉協議会)	82人
8月10日 ～9月6日	絵画寄贈作品収蔵展と化石展	370人
9月13日 ～10月7日	琴平町制125周年記念 獅子舞・太鼓台かきくらべ写真展	1,483人
10月9日 ～10月11日	金刀比羅宮例大祭奉賛 華展・お茶会	186人
10月12日 ～10月23日	こんぴらの1年 写真展	497人
10月25日 ～12月4日	第37回琴平町文化祭 (作品展示の部)	1,522人
12月5日 ～12月18日	第37回琴平町文化祭 作品展示第6期延長	142人
12月15日	クリスマス会 (琴平町社会福祉協議会)	75人
12月22日 ～12月25日	歳末大売り出し抽選会場	1,708人
合 計		10,378人

雑 報



琴平町文化協会だより二十三号をお届けします。平成元号が終わりの年となりました。ことしの夏は酷暑、秋は台風来襲など厳しい気象条件に見舞われました。会員さん、役員さん方々にも病傷の休養を余儀なくされることもありました。にもかかわらず、協会行事にご支援ご協力ありがとうございました。

大井八幡神社は琴平町の中枢・町役場から南南東。国道三十二号五條五百番地から斜めに県道琴平炭所東に入り百米。南下してきた丸亀三好線と交わる静かな木立に囲まれている。

古は出水の湧き水が境内にあり、清流は神社あたりに瀬音やさしく巡っていたという。大いなる泉で大井神社と名付けたらしい。寒冷厳しい神殿内に掲げられている絵馬の画題も定かでない、過ぎた歳月の厳かさが伺える。

金毘羅の氏神さまたった大井八幡神社の祭神は天照大神、倉稲魂命、埴安姫命、少彦名命、大己貴命と教えられている。けれど、合祀されている神々あり本殿両脇裏側に多くの神祠がある。

こんぴら散歩 ②②

大井さん・お園木さん



由緒ある神社前の長い馬場を歩みすぎると、南部消防署まえを流れる金倉川にでる。満濃池が源流のこの川に、琴平町内二十四橋の内、最上流最南端に架かる

雄装軒橋がある。

橋のふもとの祠は木魂・園木明神で楠の老樹に守られている。人々はおそのきさんと呼び、この辺りの地名にもなっている。



満濃池から金倉川を泳ぎ大槌小槌の島へ逃げた竜の伝説はさぬき民話でも有名だが、お園木さん辺りで「豆腐屋帰りのねえやんが後手に隠したおあげさん、お狸さんに奪われて帰って婆やんに叱られた」語部の昔話はもう遠い川風に吹きとばされてしまったのだろうか。お園木さんに季節の花が供えられ、金倉川の水面はこんぴら風情をそよがせている。琴平町の最南東・五條あたりはやさしい郷愁の散歩道である。(堀)

花の陰硯にかはる丸瓦幼年期、周辺で遊んだ思い出深い芭蕉の句碑である。昭和五十年ごろ、金刀比羅宮社務所の許可を得て、当時勤めていた中学校の生徒たちとそこの拓本をとったことがある。まず軽くよこれを払い、画仙紙を張り、ぬれタオルで密着させ、乾いたタオルで字を押さえ水分を取る。次に墨をタンポで軽くたたいてのせてゆく。(呉竹拓本のとり方より)四十年前、元氣そのものの私は書道部の生徒三・四人とバケツや画仙紙を抱え、琴中から神苑まで往復し皆でキャーキャー言いながらこの作業をしたと思う。少し墨のむらがあつたり、破れたりもしたが案外うまくいき、芭蕉の句がうっすら浮かび上った時、一同満足して帰路についてたのである。今、この楽しい思い出と共に琴平に住み、身近な神苑のそこかしこで芭蕉や一茶、蕪村をはじめ多くの味わい深い石碑を鑑賞できる幸せを感じるのである。(山)

編集委員

- ◎門脇 俊文
- 大西 文子
- 片岡 敏子
- 川上喜久子
- 爲廣 幸子
- 堀家 七子
- 山野 弘子
- 横関寿眞子

発行日 2019年(平成31年)3月10日
 発刊所 〒766-0004 香川県仲多度郡琴平町榎井891-7
 琴平町教育委員会事務局内
 琴平町文化協会
 TEL 0877-75-6716
 FAX 0877-75-4120
 編集兼発行者 門脇 俊文

編集部一同



地域の皆さまに感謝いたします



三味線もちつき 金丸座
(2018.4.22)郷土芸能同好会



商店街の提灯清掃
(2018.9.25)野球部



れんげ畑祭
(2018.4.22)とらすとK



琴平町「町民体育祭」
(2018.11.4)サッカー部



金刀比羅宮例大祭「奉幣供進の儀」
(2018.10.1)男子剣道部



クリーンアップ大作戦
(2018.12.13)全校生徒



香川科学体験フェスティバル
(2018.11.11)有志

お願いいたします。

本校に、ありがとうございます。そして、今後ともよろしく

お願いいたします。

困っている人がいたら、そっと手を貸してあげる、そんな優しい大人になって欲しいと願って、我々教員は日々の教育活動に取り組んでおります。その根底には、生徒の自分自身に対する自信が不可欠です。その自信を育むかけがえのない体験の機会を作ってください。地域の方々に、大いなる感謝を述べたいと思います。

体験は偉大です。生徒は体験を通して変化を実感します。変化を実感する事で、その変化をもたらした自分に対して、「私もなかなかやるじゃない。」と一つ自信を持つ事ができるようになります。自信というものは不確かなもので、言葉で「自信を持って。」と言われてもそう簡単には持てない。目には見えない。目の前の様子が変化することを、一つ一つ体感することを通じて徐々に育んでいくものだと考えます。

「学校外で体験できる」ということも大切な要因です。なぜなら、言葉をかけていただけなのが、教員ではない方だからです。全く見知らぬ観光客の方々から、声をかけていただけたのもありがたいのですが、地元の高校の生徒、すなわち「琴高生」とわかつて、「ありがとう。」と頑張っているね。」とあたたかい声をかけていただくと嬉しさはひとしおです。自分の存在を認めてもらえる事は、人間にとって大きな喜びです。

今年度、ある行事でこんな場面がありました。地元の幼稚園児を招待しての行事での事です。まわりの音に驚いた二人の園児が、突然泣き出しました。すると、近くにいた人が、すっと園児を抱き寄せ膝の上に乗せ、「大丈夫だよ。」と優しく声をかけたのです。園児は安心して、すぐに泣きやみました。「さすが、幼稚園の先生!」と思つて、よく見ると、なんと、それは本校三年の女子生徒でした。



校長 中西 公子

今年度も、地域での行事の折に、本校生徒の出番を準備していただき、多くの体験をさせていただけた事に對して、まず感謝申し上げます。

★ 琴 高 通 信

第21号

香川県立琴平高等学校
香川県 仲多度郡
琴平町 142-2
電話 0877(73)2261

紙面の紹介

- ◆ 一面 ◆ 全国総文祭（郷土芸能同好会）
- ◆ 二面 ◆ インターハイ出場（三武道そろって）
- ◆ 三面 ◆ 異種武道大会・文化部等公演会
- ◆ 四面 ◆ 読書感想文最優秀・放送部・野球部・とらすとK

第42回 全国高等学校総合文化祭

2018 信州総文祭

郷土芸能部門／伝承芸能の部

文化連盟賞 郷土芸能同好会

村上 美久さんの感想(踊り)

日頃の練習の成果が十分に発揮でき、今までで一番納得のいく出来だったと思います。また、他校の演技にも刺激を受けました。特に、秋田県の名まげ太鼓が印象に残っています。全身を使った演技と迫力のある太鼓の音が素晴らしいです。各地方の郷土芸能を、たくさんの人に知ってもらえたらいいのと思いました。

石川 穂奈さんの感想(唄)

他校の演技を鑑賞して、小さな動き一つひとつが揃っていて、一人ひとりの思いが、チーム全体に伝わって、素晴らしい演技や演舞が成り立ち、観客を感動させるのだなと思いました。自分の中の最高で留まるのではなく、それを超えるくらいの気持ちを常に持って、日頃の練習に励まなければならぬということ学びました。



今年は 剣道に一本!



◆剣道部
 三年生最後の大会に、三年生男子全員で試合をすることができ、チームも勝つことができました。昨年の異種武道大会にも出場したものの自分自身が敗退し、悔しい思いもありました。しかし、今回は先鋒戦から良い流れで大将につながるまで満足しています。

◆監督 宮田先生から
 今年の異種武道大会は、三年生の男子七名で臨みました。全国大会を経験した学年でもあり、チームワークの良さが目立つ選手たちです。先手を取った末武君は持ち味の「面」でチームの勝ちの流れを作ることができました。三番手を務めた近藤君は倒れた相手選手に「大丈夫?」と手を差し伸べる温かい場面も見られました。

◆なぎなた部
 大岡 瞳選手のご感想
 陣を組んで「絶対、大丈夫」とみんなが気持ちをひとつにして挑みました。前の人が取られてしまえば緊張してた私に先輩が「悔いのないよう楽しんで勝負しよう」と言ってくれました。負けてしまったらという気持ちは捨て、強い気持ちで挑み先輩やみんなの応援のおかげで一本取ることができました。

◆監督 白川先生から
 両部活動ともに、全国大会で活躍するため、日々稽古に励み、心と技を磨いてきました。今大会では、いつも応援してくれるみなさんに感謝を込めて自分たちが培ってきたものを見てもらえるよう試合に臨みました。三年生にとっては、最後の大会。選手との三年間を思い出しながら「戦」を楽しんでいくことができました。全国優勝を目標に共に戦えたこと、感謝しています。

全在校生や招待された幼稚園児、小学生など大勢が見守る中、今年も剣道部対なぎなた部の異種武道大会が行われました。対戦前の静かな「礼」。対戦中の気迫のこもった声。終わりの「礼」。武道の真剣勝負の見ごたえを感じられる時間でした。

第十二回 異種武道大会

二〇一八年十二月五日

インターハイ出場 ~3武道そろって~



◆弓道
 谷口 風我選手のご感想
 私は県総体で準優勝し、インターハイに出場しました。本番前日の会場練習では普段と違う会場や、四方八方から聞こえる応援がとても緊張し、手が震えました。「引退」と香川県の代表という言葉の重さは、今でも鮮明に思い出すことができます。今まで支えてくださった先生方、先輩方のことを思い出し、「いつも通り」とだけ考えて、決勝まで進出することが出来ました。三年間本当に苦しい事もたくさんありましたが、最後まで力を出し切ったと思っています。

◆なぎなた
 今井 美月選手のご感想
 私はインターハイに出場させて頂き、主将として琴平高校で最後の試合に臨みました。三年間練習してきたことを出し切れるようにチームをまとめ、自分たちを高め合うような声かけをしてきました。三年生三人で出場できたこと、周りの方々に応援していただいたことに感謝しています。

◆秦神奈選手のご感想
 私は初めてインターハイに出場しました。インターハイまで毎日練習し、自分たちの得意技や、チーム作りを頑張りました。本番では、緊張しましたが、緊張を集中に変え、チーム一丸となって試合に挑むことができました。三年間練習してきたことを、発揮することができて本当に良かったです。

◆剣道
 長尾 海人選手のご感想
 私はインターハイで優勝することを目標に二年半頑張ってきました。インターハイ個人では、自分の力が発揮できずに負けてしまいました。私は試合で負けたことよりも、自分の力が発揮できずに負けたことがショックで剣道を今すぐ辞めようかと考えていました。その夜落ち込んでいた私に、チームメイトが「最後、団体戦で一緒に頑張ろう」と声をかけてくれたおかげで立ち直ることができました。予選は上がることができなかったけれど、最後は強い相手に勝つことができ、一生忘れられないインターハイになりました。

◆森智奈子選手のご感想
 インターハイで特に印象に残ったことは、会場の雰囲気です。普段の大会とは全然違う空気や他の選手の出場した全国大会では、悪い方にはかなり考えてしまいがちですが、今回は悪くない方ばかり考えてしまいがちで、いつも通りの射ができませんでした。今回のインターハイでは一本一本落ち着いて引くことが出来ました。予選敗退という結果でしたが、自分の気持ちの弱さを克服することができ、とても良い経験になりました。

とを、発揮することができて本当によかったと思います。これまで指導してくださった先生や先輩方、応援してくださった方々に感謝しています。

◆大池 真鈴選手のご感想
 目標としたインターハイの出場でしたが、結果を残すことができませんでした。来年は後輩たちに頑張ってもらいたいです。先生等多くの方々に支えていただき感謝しています。全国は県とは違い、レベルの高さを感じました。その様な中で、私は稽古で身につけたすべてを出し切ることができて、戦い抜きました。稽古を通して技術はもろろメンタルの強化もでき、仲間の大切さを知りました。今後の進路に活かしていきたいです。

◆岩本 一真選手のご感想
 今年の剣道部は「繋」をスローガンにして、チーム一丸となって稽古に取り組んできました。私たちの持ち味の攻めの剣道と、先鋒から良い流れを繋ぐことができ、県総体を優勝し、インターハイへ進むことができました。インターハイでは相手の攻めに対応することができなかった悔しい場面もあり、予選リーグ敗退となりました。悔しい気持ちでいっぱいでしたが、インターハイという大舞台で琴平高校剣道部として戦うことができ、本当に良い思い出になりました。

なぎなた部、剣道部(男・女) 選抜大会出場

なぎなた部は、第14回全国高等学校なぎなた選抜大会(平成31年3月23日(土)~24日(日)兵庫県伊丹市)の団体戦と個人戦(3名)に出場します。剣道部は、第28回全国高等学校剣道選抜大会(平成31年3月26日(火)~28日(木)愛知県春日井市)の団体戦に男女がアベック出場します。

文化部等公演会 2018年12月6日



手話コーラス



チアリーディング



吹奏楽

今年は、三年五組の授業発表として手話コーラス「三百六十五日の紙飛行機」、書道パフォーマンス、郷土芸能同好会演舞、チアリーディング、吹奏楽部演奏が行われました。クラスで練習したことや部活動・同好会の活動で鍛えた成果を発表できました。鑑賞する生徒たちは注目したり、音楽にのって手拍子をしたり、大きな拍手をおくったりしました。日頃は分からない友達の文化的活躍の場を見ることができました。



書道パフォーマンス(途中のところ)



書道パフォーマンス(完成したところ)



郷土芸能

とらすとK 活動報告



岡山県真備町での清掃ボランティア



琴平町のれんげ畑祭り



神戸の方々との交流活動

平成三十年の年末から、四国新聞に三年の池田さちさん、寺嶋千織さん、富士野開君、久保谷太二君、秋山涼志君、前田かりんさん、田中花音さん、小松大成君の投書が掲載されました。

きっかけは国語表現の授業で、コラムを書く課題に取り組んだことです。担当された高木先生は投稿することを前提に、読み手の関心を引く工夫について考えながら書くことを意識させたそうです。学校生活での気付きや社会問題などテーマ選びこそ苦戦していましたが、テーマが決まると体験を下にいきいきとした文章が書けました。掲載された生徒は家族や友人など多くの人たちから掲載を知らされ、「驚いた」「嬉しかった」という感想が聞かれました。

新聞に投書がぞくぞく掲載



大谷 雪乃さんの感想

本を読むことがあまり好きではない私が、夏休みに出会った二冊の本で、最優秀を頂くことができ、とても驚いています。マララさんの生き方や考え方に共感し、今の自分と比べてみました。私は恵まれた社会で、当たり前のように高校生活を送れていることに感謝の気持ちがわき上がってきた感覚を忘れません。学ぶことの大切さを一冊の本から教えてもらいました。

第六十四回青少年読書感想文コンクール香川県審査会において、一年の大谷雪乃さんが自由読書の部で『わたしはマララ』を読み、「教育という武器を手に」で最優秀に選ばれました。

読書感想文 最優秀 「教育という武器を手に」



夏の大会 ベスト8

第100回全国高等学校野球選手権記念香川大会で、野球部が36年ぶりにベスト8に進出しました。

3年主将 増田 一樹君の感想

準決勝進出をかけた高松高校との試合が一番印象に残っています。9回サヨナラ負けという悔しい試合でしたが、野球部のスローガンである「enjoy baseball」を最後まで貫けたと思います。ベスト8という結果が残せたのもOB・後援会の方々や保護者、そして先生方、生徒の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

- 2回戦 琴平 12-2 高松東(6回コールド)
- 3回戦 琴平 7-4 香川高専高松
- 準々決勝 琴平 7-8 高松



さあ 試合開始!



集中した投球



スタンドからの熱い応援も

第65回 NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門出場

7月23日~26日に東京で開催され、本校3年生の林美憂さんが出場しました。

林 美憂さんの感想

私は7月に東京で行われた全国大会に出場しました。私は全国大会に出場するのは初めてのことでした。他県からの出場者のレベルの高いアナウンスと、会場の緊張感に圧倒されましたが、緊張せず、練習通りに読むことができました。良い結果は残せなかったのですが、他の出場者のレベルの高いアナウンスを聞くことで、自分のアナウンスの良くない部分に気がつくとともに、学ぶことがたくさんありました。自分にとって良い経験になったと思います。

